

2024年度 第1四半期 決算説明会 質疑応答（要旨）

Q1) 航空事業における第1四半期の実績について、売上高・費用別に計画との主な差異を教えてください。

- A1) ・ 第1四半期は好調な需要を取り込んだことで国際線事業の収入が計画よりも上振れました。一方で為替の円安影響や整備費の増加により、営業費用が計画よりも増加したことで、営業利益は当初計画と同水準となりました。
- ・ 売上高・営業費用の主な計画差異は以下の通りです。
[計画差異の内訳(航空事業、第1四半期(4~6月))]
売上高：+100億円
(国際旅客+60億円、国際貨物+20億円、その他+20億円(受託整備+30億円など))
営業費用：+100億円
(整備費+100億円(為替影響+50億円、受託整備+30億円、整備機会の増加+15億円)など)

Q2) 航空事業以外の第1四半期の営業利益について詳細を教えてください。

- A2) ・ 航空関連事業は、海外エアラインからの空港ハンドリングの受託契約の値上げに関して、グループ間での契約更改が第1四半期では完了していないため、今後順次、精算を進めていきます。
- ・ 旅行事業は、ANA 経済圏の拡大に向けて販促費を先行投入していることなどにより赤字となりましたが、利益水準は当初の計画並みで推移しています。

Q3) 国際旅客事業におけるイールドが、計画から上振れた背景をどのように分析していますか。

- A3) ・ 第1四半期は好調な北米線が全体を牽引し、イールドは計画よりもやや上回りました。
- ・ 北米線は、北米発の運賃を値上げしたことに加えて、日本発の業務渡航需要が堅調に回復したことが寄与しました。一方で、中国線では外航の復便が進んだことによりイールドの正常化が進み、計画から下振れて推移しました。
 - ・ 第2四半期は北米線を中心に好調な状況が継続する見込みですが、イールドは全方面で徐々に正常化に向かうと想定しています。今後も競合他社の生産量の拡大など、需給環境を注視していきます。

Q4) ANAブランドの旅客事業について、今後の需給の見通しを教えてください。

A4) [国際旅客]

- ・ 北米線を中心に日本発の業務渡航需要や訪日需要が堅調に推移し、国際線の需要は今後も安定的に回復すると見込んでいます。
- ・ 当社の供給量は、第3四半期以降に欧州方面の新規就航路線を開設するなど、概ね計画通りに推移する見込みです。中国線も訪日需要が堅調に回復していることから、事業規模は計画通り拡大できると見通しています。

[国内旅客]

- ・ ビジネス需要は穏やかな回復が続いています。レジャーに関して、コロナ後のペントアップ需要は一服したものの、引き続き高い水準で推移しています。多客期の第2四半期に収入の最大化が図れるよう、引き続き需要獲得に努めていきます。

以上